

工業会活動

2024年度（令和6年度）

航空機生産・輸出・受注額 見通し

当工業会は、会員企業26社の協力を得て本年7月末時点における「航空機生産・輸出・受注額見通し」の調査を実施した。

2019年度に1.8兆円台に達した生産額は、新型コロナウイルスの影響による航空機需要の減少により2021年度に約0.9兆円台まで反転下落したものの、2022年度から回復傾向を示し、2024年度は再び1.8兆円を上回る見通しとなり、確実な回復・増加傾向にあることが確認された。

また、受注額も2020年度に1.1兆円台まで下落したが、2021年度から増加に転じた後、2023年度は2.4兆円に迫り、2024年度も同規模を窺う見通しであることが、今回の調査で示された。主な要因は戦略3文書（2022年12月閣議決定）に基づく防衛力整備として防衛予算の2年連続の増額更新が挙げられる。

今後については、防衛向けでは当面5か年度の経費総額・整備数量を定めた防衛力整備計画に基づきP-1哨戒機・C-2輸送機等の固定翼機やUH-2多用途機、SH-60L哨戒機等の回転翼機の調達に伴う安定的生産と次期戦闘機の開発推進が期待される。民間向けでは航空旅客需要がコロナ前水準の回復から成長へと堅調に推移しており、これを受け、特にエンジン関連は新製エンジン、同補用部品の伸長により増加基調にあると見込まれる。一方、機体関連では、広胴機で機体構造Tier1として地位を確立している日本企業にとってはボーイングの製造品質を巡る対応を注視しているところである。

こうした状況下、世界を取り巻く安全保障やサプライチェーン、環境対応などの様々な課題には注意を払う必要があるものの、2024年度以降の航空機生産の動向は引き続き堅調に推移するものと想定される。

調査結果の概要について、以下に記す。

1. 生産額

(1) 全般

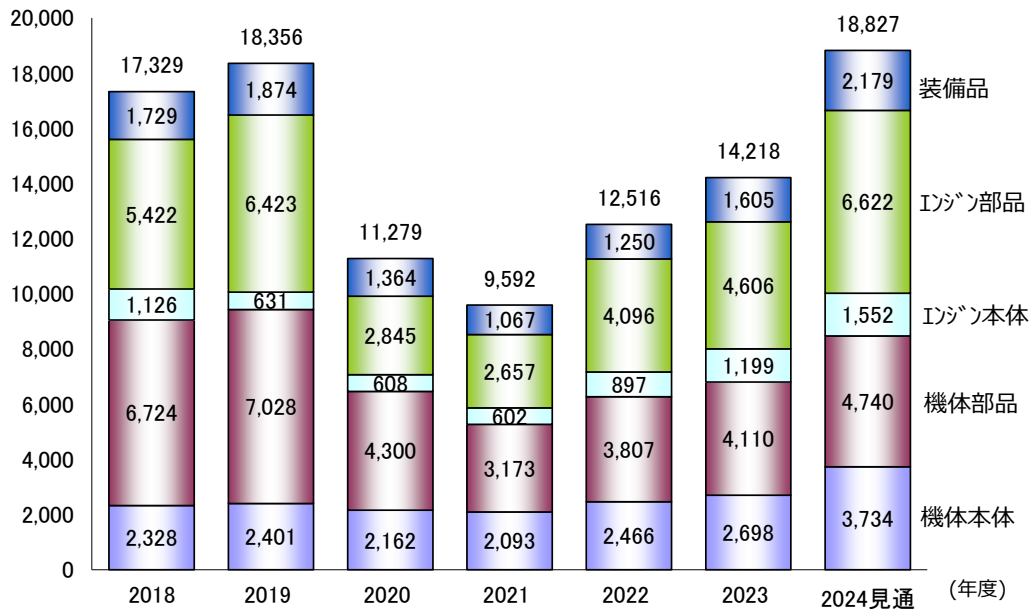
◇「2023年度実績額」は1兆4,218億円で前年

比1,702億円（13.6%）の増となった。

◇「2024年度見通し額」は1兆8,827億円で前年比4,609億円（32.4%）増の見通し。

(億円)

生産額の長期推移



(単位: 億円)

年度 区分	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024見通
機体本体	2,328	2,401	2,162	2,093	2,466	2,698	3,734
機体部品	6,724	7,028	4,300	3,173	3,807	4,110	4,740
(小計)	(9,053)	(9,429)	(6,462)	(5,266)	(6,273)	(6,808)	(8,474)
エンジン本体	1,126	631	608	602	897	1,199	1,552
エンジン部品	5,422	6,423	2,845	2,657	4,096	4,606	6,622
(小計)	(6,548)	(7,053)	(3,453)	(3,259)	(4,993)	(5,805)	(8,174)
装備品	1,729	1,874	1,364	1,067	1,250	1,605	2,179
計	17,329	18,356	11,279	9,592	12,516	14,218	18,827

(注) 四捨五入の関係から、合計は必ずしも一致しない。

(2) 内訳

①機体関連

◇2023年度は、「機体本体」は防衛向けP-1固定翼哨戒機・C-2輸送機、UH-2多用途ヘリコプター、SH-60K哨戒ヘリコプターなどの増により232億円増の2,698億円、「機体部品」がBoeing向け777/777X/787用部品増等により303億円増の4,110億円で、「機体合計」では535億円増の6,808億円となった。

◇2024年度は、「機体本体」は防衛向けP-1固定翼哨戒機・C-2輸送機、UH-2多用途ヘリ

コプターなどの増により1,036億円増の3,734億円、「機体部品」はBoeing向け787用部品増等により630億円増の4,740億円、「機体合計」では1,666億円増の8,474億円の見通しである。

②エンジン関連

◇2023年度は、「エンジン本体」は防衛向けエンジンと海外向けエンジン修理の増等により302億円増の1,199億円、「エンジン部品」が海外向けエンジン部品の増等により509億円増の4,606億円で、「エンジン合計」で

は812億円増の5,805億円となった。

◇2024年度は、「エンジン本体」は防衛向けエンジン及び海外向けエンジン修理の増等により353億円増の1,552億円、「エンジン部品」が海外向けエンジン部品の増等により2,016億円増の6,622億円で、「エンジン合計」では2,369億円増の8,174億円の見通しである。

③装備品

◇2023年度は、民間機向け内装品、防衛向け装備品の増等により、355億円増の1,605億

円となった。

◇2024年度は、民間機向け内装品、防衛向け装備品の増等により、574億円増の2,179億円の見通しである。

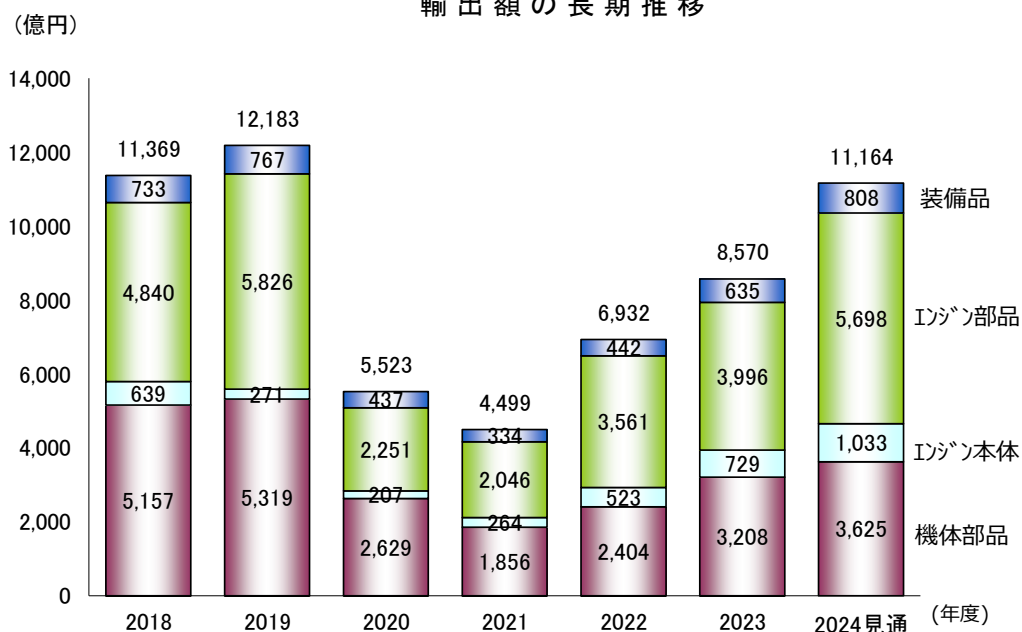
2. 輸出額

(1) 全般

◇「2023年度実績額」は8,570億円で前年比1,638億円（23.6%）の増となった。

◇「2024年度見通し額」は1兆1,164億円で前年比2,594億円（30.3%）増の見通し。

輸 出 額 の 長 期 推 移



		(単位: 億円)					
年度区分	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024見通
機体本体	1	0	0	0	2	2	0
機体部品	5,157	5,319	2,629	1,856	2,404	3,208	3,625
(小計)	(5,158)	(5,319)	(2,629)	(1,856)	(2,406)	(3,210)	(3,625)
エンジン本体	639	271	207	264	523	729	1,033
エンジン部品	4,840	5,826	2,251	2,046	3,561	3,996	5,698
(小計)	(5,479)	(6,096)	(2,458)	(2,309)	(4,083)	(4,725)	(6,731)
装備品	733	767	437	334	442	635	808
計	11,369	12,183	5,523	4,499	6,932	8,570	11,164

(注) 四捨五入の関係から、合計は必ずしも一致しない。

(2) 内訳

①機体関連（機体部品のみ）

◇2023年度は、Boeing向け777/777X/787用部品増等により804億円増の3,208億円となった。

◇2024年度は、Boeing向け777/777X/787用部品増等により417億円増の3,625億円の見通しである。

②エンジン関連

◇2023年度は、「エンジン本体」は海外向け修理の増等により206億円増の729億円、「エンジン部品」が海外向けエンジン部品の増等により435億円増の3,996億円で、「エンジン合計」では642億円増の4,725億円となった。

◇2024年度は、「エンジン本体」は海外向け修理の増等により304億円増の1,033億円、

「エンジン部品」が海外向けエンジン部品の増等により1,702億円増の5,698億円で、「エンジン合計」では2,006億円増の6,731億円の見通しである。

③装備品

◇2023年度は、民間機向け内装品の増等により193億円増の635億円となった。

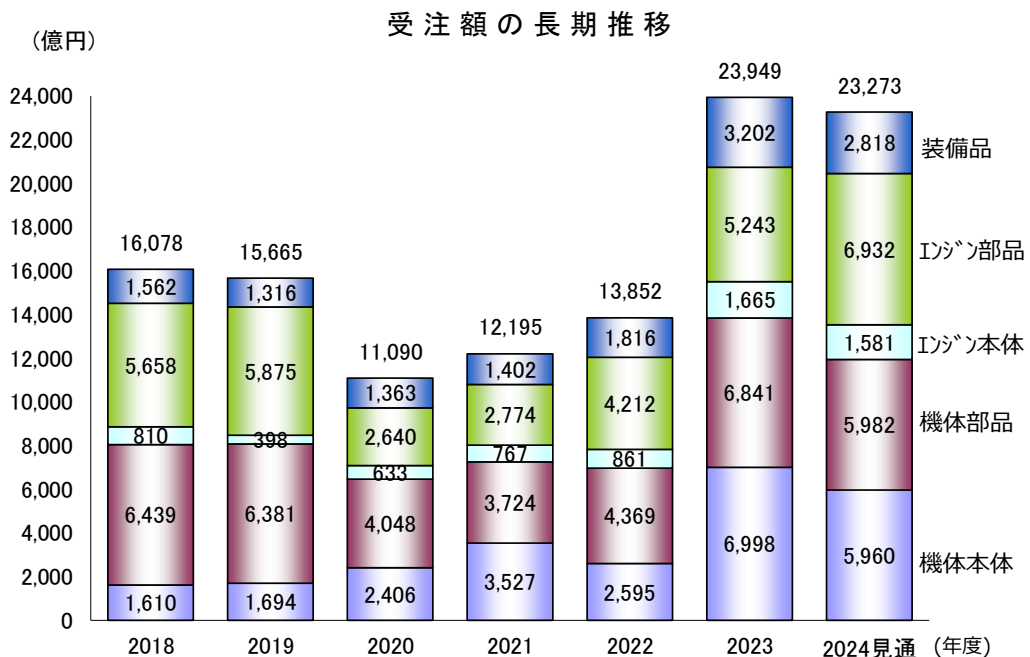
◇2024年度は、民間機向け内装品の増等により173億円増の808億円の見通しである。

3. 受注額

(1) 全般

◇「2023年度実績額」は2兆3,949億円で前年比1兆97億円（72.9%）の増となった。

◇「2024年度見通し額」は2兆3,273億円で前年比676億円（2.8%）減の見通し。



(単位:億円)							
年度 区分	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024見通
機体本体	1,610	1,694	2,406	3,527	2,595	6,998	5,960
機体部品	6,439	6,381	4,048	3,724	4,369	6,841	5,982
(小計)	(8,049)	(8,075)	(6,454)	(7,251)	(6,964)	(13,839)	(11,942)
エンジン本体	810	398	633	767	861	1,665	1,581
エンジン部品	5,658	5,875	2,640	2,774	4,212	5,243	6,932
(小計)	(6,468)	(6,274)	(3,273)	(3,542)	(5,073)	(6,908)	(8,513)
装備品	1,562	1,316	1,363	1,402	1,816	3,202	2,818
計	16,078	15,665	11,090	12,195	13,852	23,949	23,273

(注)四捨五入の関係から、合計は必ずしも一致しない。

(2) 内訳

①機体関連

◇2023年度は、「機体本体」は防衛向けP-1固定翼哨戒機・C-2輸送機やSH-60L哨戒ヘリコプター、UH-60J救難ヘリコプター等の増により4,403億円増の6,998億円、「機体部品」がBoeing 向け777/777X/787用部品の増等により2,472億円増の6,841億円で、「機体合計」では6,875億円増の1兆3,839億円となった。

◇2024年度は、「機体本体」はMCH101掃海・輸送ヘリコプター、UH-60J救難ヘリコプターの減等により1,038億円減の5,960億円、「機体部品」がBoeing 向け787用部品の減等により859億円減の5,982億円で、「機体合計」では1,897億円減の1兆1,942億円の見通しである。

②エンジン関連

◇2023年度は、「エンジン本体」は防衛向けエンジン製造の増等により804億円増の1,665億円、「エンジン部品」が防衛向け補用品や海外向け部品の増等により1,031億円増の5,243億円で、「エンジン合計」では1,835億円増の6,908億円となった。

◇2024年度は、「エンジン本体」は防衛向けエンジン製造の減等により84億円減の1,581億円、「エンジン部品」が防衛向け補用品や海外向け部品の増等により1,689億円増の6,932億円で、「エンジン合計」では1,605億円増の8,513億円の見通しである。

③装備品

◇2023年度は、防衛向け装備品や民間機向け内装品の増等により1,386億円増の3,202億円となった。

◇2024年度は、防衛向け装備品の減等により384億円減の2,818億円の見通しである。

<調査対象企業：26社> (五十音順)

I H I、沖電気工業、カヤバ、川崎重工、小糸製作所、島津製作所、昭和飛行機工業、シンフォニアテクノロジー、新明和工業、ジャムコ、SUBARU、住友精密工業、多摩川精機、東京計器、東京航空計器、東芝インフラシステムズ、ナブテスコ、日本電気、日本飛行機、日本航空電子工業、富士通、三菱重工、三菱電機、三菱プレジジョン、横浜ゴム、YDKテクノロジー

[(一社) 日本航空宇宙工業会 業務部部長 川原 亘弘]